

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	中国語 I B (Chinese) 2011012-014					担当教員	白 雪晴 (バイ ショエチン)		
科目区分	教養科目 語学科目	必修・ 選択区分	選択必修	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型 AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>国際化を鑑み、隣国である中国の文化の理解と教養を養い、そのために、言語の基本を学ぶこととともに、中国文化の理解に努め、中国検定試験準4級に達するレベルを身につける。</p> <p>中国語がどのような言語であるのか、発音の基礎、簡単な決まり文句、挨拶などの日常会話、自己紹介などを学ぶ。また、動詞、目的語や時を表す名詞の位置などの基本的な語順についても学ぶ。具体的には、キレイな中国語の発音ができ、文章はピンインなくても読め、慣用句的な文法を理解したうえ、ある程度の長い文章が書ける。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
隣国を理解することによって、日本の地域社会に貢献できる人材を目指す。									
③ 授業の進め方・指示事項									
講師の発音指導、説明を主とし、CDも毎回聞き補充手段にする。板書、配布印刷物、視聴覚メディア等を活用する。中国語が話せるため、試行錯誤をしていく。提出物、作文の作成練習もある。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
なし									
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安									
<p>(i) 学生が、ピンインをほぼ読める。</p> <p>(ii) 学生が中国語の順番をほとんどわかる。漢字も正確に書ける。</p> <p>(iii) 学生が文法を大抵把握でき、文章訳も通じる程度に達す。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
<p>楊凱栄・張麗群（2015）『LOVE！上海 初級中国語（第1版）』朝日出版社</p> <p>梅田順子（2019）『中国語ミニ会話-30-（第2刷）』（株）エコー国際ネットワーク</p>									
⑦ 参考図書・指定図書									
教材についている CD を、繰り返し聞き、復習をすることが一番肝心。月刊誌「人民中国」などを参考として読むことが望ましい。ニュースでの中国に関する内容に注目してほしい。									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 文法への認識は外国語勉強の目標である。	学生が文法を把握でき、日中、中日翻訳ともできる。	学生が文法を大抵把握でき、文章訳も通じる程度に達す。	学生が文法の70%を覚え、文章の半分以上訳せる。	学生が文法を半分を覚え、翻訳能力は50%に達する。	学生が文法への把握は半分以下。
(ii) 中国語文の順番は、一番肝心なチェック要項。	学生が、中国語と日本語の違いを明確し、文章の順番を正確にわかる。	学生が中国語の順番をほとんどわかる。漢字も正確に書ける。	学生が中国語の順番への把握はほぼできる。	学生が中国語の順番の肝心な部分がわかる。	学生が中国語の順番の正確さは、半分以下。
(iii) 正確な発音は、中国語が通じる絶対的な条件。	学生が、発音記号のピンインを正確に発音ができる。	学生が、ピンインをほぼ読める。	学生がピンインの発音の正確さは80%。	学生が、ピンインの半分以上は発音ができる。	学生が、自分で発音ができる具合は50%以下。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%		20%			20%		100%
(i)	20%		5%			5%		30%
(ii)	20%		5%			5%		30%
(iii)	20%		10%			10%		40%
フィードバックの方法	提出物は添削して返却し、解説の時間も設ける。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
教材だけでなく、中国語の特徴や中国の文化、現状などの話も多く取り込む。

⑪ 授業計画と学習課題		
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）
1	中国という国。中国語の特徴、発音記号のピンインを紹介する、声調、単母音を覚える。学生の名前の中国語読みの練習。	教材につく CD を聞き、授業内容を復習。 20分

2	子音、複母音の一部、ミニ会話、中国のメーデー、練習問題	CDで授業内容の復習、ネットの映像で発音への確認	30分
3	複母音の一部、ピンインの表の発音練習、ミニ会話、中国の「6・1児童節」、練習問題	CDで授業内容の復習、提出物を確認	30分
4	ピンインの表の発音練習、ミニ会話、第1課・「吗」疑問文を中心とする、「7・1中国の共産党の誕生日」、練習問題	CDで授業内容の復習、提出物を確認	30分
5	ピンインの表の発音練習、ミニ会話、第2課・疑問詞疑問文を中心とする、中国の「端午の節句」、練習問題	CDで授業内容の復習、ネットで中国に関する検索	30分
6	ピンインの表の発音練習、ミニ会話、第3課・動詞の「在」及び量詞、中国に関する句の話、練習問題	CDで授業内容の復習、ネットで中国に関する検索	30分
7	ピンインの表の発音練習、ミニ会話、第4課・動詞の「有」及び家族の言い方、講師の故郷紹介、練習問題	CDで授業内容の復習、中国語での入力の確認と練習	30分
8	ピンインの表の発音練習、ミニ会話、第5課・副詞の「不」「都」を中心とし、中国の今の出来事、練習問題	CDで授業内容の復習、中国語での入力の確認と練習	30分
9	ミニ会話、第6課・形容詞述語文を中心とし、中国の「9・10教師の日」、練習問題	CDで授業内容の復習、中国に関する現状へのネット検索	30分
10	ミニ会話、第7課・正反疑問文及び名詞述語文、「10・1国慶節」、練習問題	CDで授業内容の復習、中国に関する現状へのネット検索	30分
11	ミニ会話、第8課・副詞の「不」「都」を中心とし、「旧暦の祝日と新暦の祝日」、練習問題	CDで授業内容の復習、中国の流行語へのネット検索	30分
12	ミニ会話、第9課・副詞の「还」及び連動文、中国の若者の生活、練習問題	CDで授業内容の復習、中国の流行語へのネット検索	30分
13	中国語映画『初恋にきた道』	映画で聞き取れた単語の整理	30分
14	映画についての紹介、解説。ミニ会話、第10課・助動詞「会」及び主題文など、中国の「11・11独身の日」、練習問題	CDで授業内容の復習、中国に関するネット検索	30分
15	ミニ会話、試験対策	各自試験対策	60分
16	復習課、1～10課のまとめ、ミニ会話、中国のクリスマス、練習問題	各自の復習	30分
17	ミニ会話、第11課・副詞の「有点儿」及び前置詞の「离」、「3・8婦女の日」、練習問題	CDで授業内容の復習、各自中国について関心の課題にネット調べ。	30分
18	ミニ会話、第12課・存現文、比較する表現、中国人はなぜギョウザを食べるのか、練習問題	CDでの復習、各自中国について関心の課題にネット調べ	30分
19	ミニ会話、第13課・値段の言い方及び副詞の「再」、中国の一人っ子政策とその後、練習問題	CDでの復習、中国に関するニュースをネット調べる	30分

20	ミニ会話、第 14 課・結果補語、副詞の「才」「就」、練習問題	CD での復習、中国に関するニュースをネット調べる	30 分
21	ミニ会話、第 15 課・方向補語及び離合詞、中国で人気の職業、練習問題	CD での復習、提出物をまとめる	30 分
22	第 14 課と第 15 課の復習とまとめ、動詞の補語についてももう一度考える、ミニ会話、練習問題	CD での復習、教材に出た中国のことについて調べる。	30 分
23	ミニ会話、第 16 課・主述語文、二重目的語、京劇の話し、練習問題	CD での復習、教材に出た中国のことについて調べる。	30 分
24	ミニ会話、第 17 課・方向補語その二、兼語文、中国での日本料理、練習問題	CD での復習、補語について各自で調べる。	30 分
25	ミニ会話、第 18 課・前置詞「跟」、接続詞「而且」など、「日本語から借り中国語になった単語など」、練習問題	CD での復習、補語について各自で調べる。	30 分
26	中国映画『あの子を探して』	映画で聞き取れた中国語の整理	30 分
27	映画の続きを見る、中国の教育事情、映画事情などを考える	映画で分かった中国のことを考える	30 分
28	ミニ会話、第 19 課・様態補語を中心とする、中国 3 の「恋人の日」、大量の練習問題	CD での復習、さらに補語を各自で調べる。	30 分
29	ミニ会話、第 20 課・様態補語を中心とする、中国の「春節」、大量の練習問題	CD での復習、練習問題を確認や整理	30 分
30	ミニ会話、試験対策	各自試験対策	60 分

⑫ アクティブラーニングについて
学生がペアを組み、発音や会話の練習をし、その場での発表が繰り返される。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性